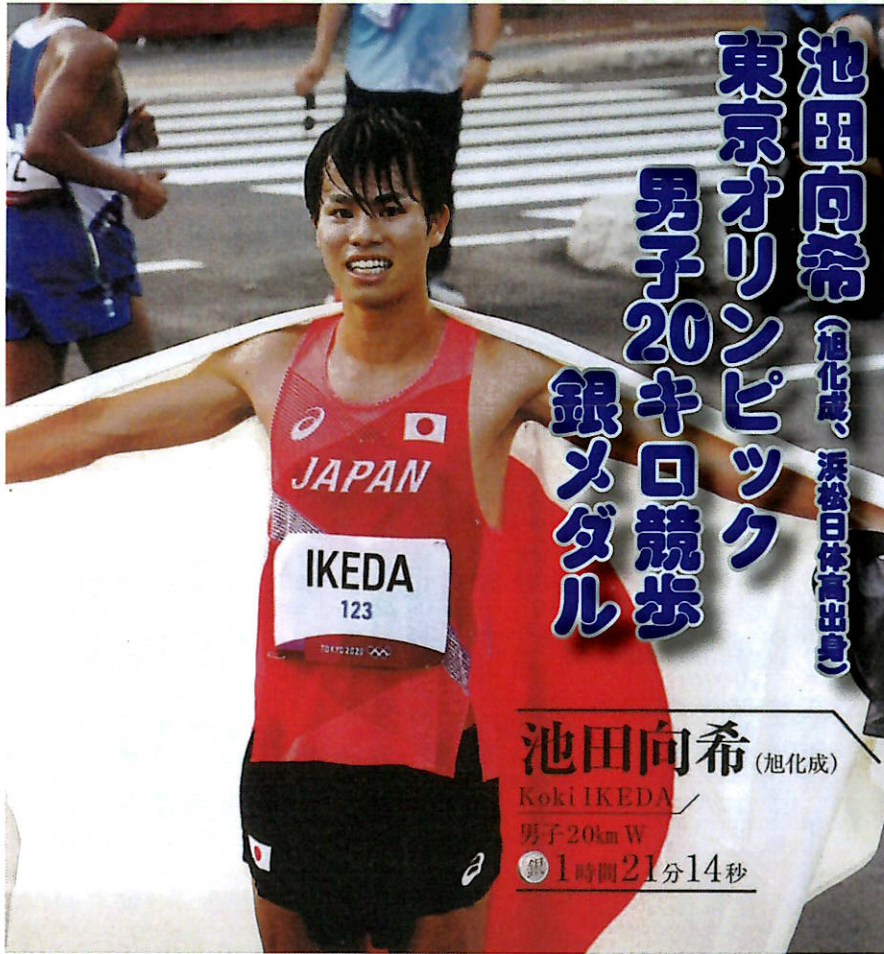


「メダルという形を残せて素直にうれしい」。
何度悔しい思いをしても、ひたむきな姿勢で乗り越えてきた。
その努力が結実した。



静岡 陸協 会報

第 30 号 (2021年 9月25日発行)
一般財団法人
静岡陸上競技協会

〒420-0032
静岡市葵区両替町2-3-6 (2F)
TEL・FAX 054-253-9801



静岡県選手権

男子一〇〇mは宮城辰郎(日星電気)が10秒15(+4.6)、二〇〇mは原翔太が



21秒78(-4.7)で優勝した。男子一〇〇mHでは飯塚魁晟(日大)が13秒94の大
会新記録を樹立した。

女子では、一〇〇mで園宮璃子(日体大)が11秒55(+4.8)、二〇〇mは小林七菜(沼津東)が25秒37(-4.1)で制した。棒高跳びでは荻野未悠(浜松南)が3m91を跳び、大会新、東海高校新を樹立した。やり投げは田畑美羽(中京大)が49m12で優勝した。

二〇二二年度静岡陸上競技協会顕彰受賞者



三、功労者表彰

- 西尾 誠 東部・伊豆の国市
- 横森 春美 東部・富士宮市
- 望月 勇志 中部・静岡市
- 小川 富男 中部・静岡市
- 溝口美三男 西部・掛川市
- 鈴木 薫 西部・浜松市

四、日本記録樹立者表彰

- 池田 向希 男子五〇〇〇W 18分20秒14
- 男子一〇〇〇〇W 37分25秒9
- 川野 将虎 男子五〇〇〇W 18分28秒26

五、優秀選手賞

- 兵頭ジュダ (東海大翔洋高) 全国リモート大会 八〇〇m 1分52秒24 1位
- 深沢 瑞樹 (東海大翔洋高) 全国リモート大会 走幅跳 7m67 1位
- 磯貝 唯菜 (浜松笠井中) 全国中学 二〇〇m 24秒68 優勝

日本陸上競技連盟2020年度

- 中学生・高校生優秀選手賞
- (中学生) 磯貝 唯菜 (浜松市立笠井中学校)
- (高校生) 太田 蒼翔 (浜松市立高等学校)

- 一、特別功労表彰
- 池田 毅

- 二、永年勤続功労者表彰
- 村松 義明
- 荒川 功
- 山下 眞里

チーム紹介

伊東ジュニア陸上クラブ

代表 稲本多津郎

リレーで3年連続全中に出場
伊東市の伊東ジュニア陸上クラブ出身の伊東南中学生が、3年連続四〇〇mリレーで「全日本中学校陸上競技選手権大会」(以下、全中)に出場。

一昨年は女子が全中3位、昨年は男子が全中で優勝は逃したが2位。今年は男子が7月に行われた全日本中学校通信陸上静岡県大会で優勝。県代表として男子が2年連続「全中」に挑む。昨年の全中で負けた時、二年生の鈴木暢(現、部長)が「来年もここに戻ってくる」と言っていたことを思い出す。

設立のきっかけは市町駅伝
クラブの設立の契機は、二〇〇〇年に始まった静岡県市町村対抗駅伝(現市町対抗駅伝)。長らく市の陸上競技協会の活動が停滞する中、伊東市の代表チーム結成に向けて市内の関係者が久々に集まり、陸上協会を再構築して選手育成や競技普及に向け再始動した。

当初は7月から12月の駅伝大会までの練習だったが、保護者の要望で05年に当クラブを立ち上げた。スタートが駅伝練習だっただけに選手層が薄く、リレーチームを組めない時期もあった。少子化が進む中でも地道に小中学生を育成し、大会で結果を残すことよって冷めていた地域の陸上競技熱を再燃させることができた。

基本の徹底から、全国優勝へ

「走ることは全てのスポーツの基本」「まずは基礎走力を身に付けること」と、根気よく指導を続けた。そして、徐々に全国小学生大会に選手を送り出せるようになり、全国小学生大会の女子四〇〇mリレーでは16年6位、17年優勝と躍進した。18年は男子が県の代表で全国にコマを進めたが、Aクラスの決勝に入れず悔しい思いをした。

この18年の全国小学生大会で活躍した選手が中心になって、今年の全中出場を決めてくれたことは、一緒に練習するクラブ員にも良い刺激になっていく。

今年度の全中静岡県大会では、リレーの他に個人種目で伊東市内の中学生4人が6位以内に入賞し、東海大会への出場を決めた。全員が当クラブの出身者だけにこれからの活躍を期待したい。



駿河アスリートクラブ

代表 清水 樂

イサシTCに所属していたメンバーを中心にスタート

チームは中部陸協から一部支援を受けるといふ新しい形で二〇一七年に発足しました。毎年新規加入の選手を加え、現在では短距離4名、ハードル2名、中距離3名、跳躍5名、投てき1名の15名の選手が加入しています。仕事は教員や公務員、一般職、自営業など様々で、働きながら本格的な競技に取り組んでいます。若者が憧れるチームに！

「競技力向上はもちろん、アスリートとしての態度や行動でも、若い競技者から憧れられる存在になろう」というコンセプトを掲げています。社会人になってからも本気で競技を継続できる環境づくりを目指し、チームから日本選手権出場者を輩出することを目標に取り組んでいます。チームの魅力

練習は全体で集まって行うことその他に、地区ごとに声を掛け合い、集まれるメンバーで実施しています。基本的には個人の練習になりますが、連絡を取り合いながらお互いの状況を確かめ、意識を高めています。チームメンバーの内10名が教員、2名がスポーツクラブのコーチをしているため、合同練習の際には練習方法や指導観について情報交換ができることも、このチームの魅力の一つであるように感じています。

熱い気持ちをもって県選手権に！
静岡県チームとして、静岡県選手権には特に熱い気持ちで臨んでいます。

二〇二一年大会には、個人13種目、4×100mリレー、4×400mリレーで出場し、円盤投優勝、800m3位・5位、110mH6位、走幅跳5位・8位、三段跳4位・5位・8位、4×400mリレー2位という過去最高の結果を残すことができました。

チームの柱 矢部選手

選手の中でも最年長の矢部泰志選手は現在38歳。800mにおいてマスターズM35クラス日本記録保持者（1分52秒00）でもあり、県選手権5回の優勝経験があります。今大会も800m3位、マイルリレーの3走を務め、チームの精神的支柱として、第一線で活躍し続けています。またチームの代表を務める清水樂選手は走幅跳、三段跳を専門種目とし、高校教師として自チームを指導する傍ら、選手としても活躍を続けています。県外の大学に進学をしましたが、教員として静岡に就職し、活動拠点を探し、駿河アスリートクラブに所属しています。社会人で陸上を続けている方に！

現在の高校生、大学生アスリートや社会人で陸上を続けている方に、静岡には陸上を続けられる環境、チームがあると思ってもらえるよう、これからも陸上の



楽しさを発信し、何より自分たちがアスリートとして成長し続けていきます。

浜北AC

代表 河合勝一

創設23年目、小学4〜6年生を指導

浜北AC（浜北アスレチッククラブ・川合勝一代表）は1999年4月に設立。

浜北市（当時）の小学4年〜6年生を対象に陸上競技の普及を図ることを目的に設立し、浜名高校グラウンドを週2回借りて練習を行ってきました。浜松市への合併後は浜北区周辺地域からも児童の入会を受け入れ、活動拠点を平口グラウンドに移しました。現在児童94名、指導者10名が活動しています。2019年には浜松市認定スポーツ少年団体となり、中学校顧問の先生や外部指導者と協力し、卒団後の中学生にも指導、助言をさせていた

だくようになりました。あいつ・マナーを大切に、基礎重視の指導

練習はあいつから始まります。浜北ACでは陸上競技を通して心身の健全な育成を活動方針に掲げ、練習器具の準備や片付け、下級生のサポートなどを通して、スポーツ選手らしい態度を育成することを目指しています。また、基礎重視の指導体制は創設時から変わりません。毎回90分の練習時間のうち、はじめの30分は全学年共通でランニング、ストレッチ、基本ドリルを丁寧に行います。また、4年生は種目に分けてシーズン制で短距離、長距離、跳躍、ジャベリックボール投げなどの全種目を行い、コーチが



将来の適性をアドバイスします。10歳頃からのゴールデンエイジと呼ばれる時期に、より多くの運動能力を獲得すること、陸上競技の楽しさを伝えることを重視して指導に当たっています。

卒団生の多くが中学、高校で活躍

小学生の段階で県を代表するような結果を出す選手を輩出するようなことはないのですが、中学・高校へ進学後も真摯に競技活動に取り組み、活躍する選手が毎年出ています。これは、中学・高校の先生方が熱心にご指導してくださった成果でもあります。この場を借りてお礼いたします。

〈近年、活躍している卒団生〉

島田 開伸（早稲田大）、茶谷 百香（椋山女学園大）、大隅 亮太（静岡大）、森 亮真（東京国際大）、松尾 瑚捺（浜松商高）、弓場 未森（浜松工高）、杉森 心音（仙台育英高）、村松 晃成（浜松西高）、山下 然（浜松西高）、皆木 琴（浜松商高）、小野 真和（都田中）



第36回 静岡国際陸上



第36回静岡国際陸上競技大会がエコパスタジアムで行われた。男子二〇〇mは飯塚翔太（ミズノ、藤枝明誠高出）が20秒52で優勝した。八〇〇mは源裕貴（環太平洋大）が1分47秒71で制し、川元奨（スズキ）は2位だった。走高跳は衛藤昂（味の素AGF）が試技数の結果、2メートル30で頂点に立った。

女子二〇〇mは壹岐あいこ（立命大）が23秒71で優勝。四〇〇mは岩田優奈（スズキ）が54秒51で頂点に立った。八〇〇mは北村夢（エディオン）が2分3秒05で制し、田中希実（豊田自動織機TC）は2位だった。

飯塚翔太

「スタートからピッチを上げてスピードにしっかり乗れた」。コーナーを曲がると、並走していた小池（住友電工）を引き離れた。練習では全身の動きと記録を入念にすり合わせ、自身に最適なフォームを追求している成果が出た。

田中希実

「今日は八〇〇mの自己ベストが出ました！世界ではラスト八〇〇からレースが動いてくるので、それについていくスピードが必要です。これから外国の選手が入ってくると全く違うレースになりますが、ハッサン選手（オランダ）を目標とし、一五〇〇から一〇〇〇〇まで走れる選手になりたいです。」

〔編集〕

静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局

水谷陽介（編集・文責）

橋本美智夫（編集委員）

写真（陸協報道 大多和幸二）

（印刷・大日三協株）